



## 北海道偕行会全道大会

事務局長 細島 邦夫 陸自73

北海道偕行会は、第79回北海道偕行会全道大会を、ご来賓に北部方面総監部幕僚副長・木之田陸将補、講師に元中国防衛駐在官・元第10師団長の宮寄泰樹氏（陸自78期）をお招きして、令和6年12



識した。

次に中国の本質・軌跡については、中国は中華思想が核でありそれは天に相当する。天下の支配者（天子）たる習氏にすべての権限が与えられている。

・毛沢東、鄧小平、習近平と続いた中国70年の軌跡であるが、いま、習氏は民族の偉大なる復興を旗印に挙げているものの共産党を掌握できていない状況にある。

最近の中国情勢としては、

・政治では、チャイナ7の習派占有、国防大臣の逮捕等権力闘争が行われている。

・経済では、不動産バブルの崩壊、失業問題の顕在化で停滞気味である。

・社会では、若者の意欲低下がみられる。

現在の軍事戦略は、

・第1列島線（沖縄～台湾～）と第2列島線（東京～グアム～）による領域拒否・接近阻止戦略である。

・台湾攻撃には3つの作戦が予想されるが、包囲作戦が優先的であると思われる。

中国の作戦に対して日本は、トランプ政権下のアメリカ、香港に影響を及ぼしたイギリス、そして韓国、ニューゼーランドとともに対応を考えなければならぬ。

最後に、次のように結ばれた。

・直近の中国では、長老の習主席への圧力や、人民解放軍の習主席への対応に変化が見られ、今後とも中国の動きは注視していく必要がある。



聴講者からは「テレビや新聞などで報道されたことがない生々しい内容が多く、目からうろこが落ちた思いがした」とか、「今後とも中国を含む極東情勢に関心を持っていきたい」との感想があった。このような感想を踏まえ、今後の陸

修偕行会の活動においては現職幹部のみならず賛助会員との結びつきを一層深めていく必要があることを再認識した。

後段は国歌斉唱、今回お知らせをいただいた物故会員4名への黙禱のあと、幕僚副長のご挨拶があり、「方面隊殉職隊員追悼式、創立記念行事、各地の慰霊祭参加など諸行事に対する偕行会の活動に敬意を表し、陸修偕行社、北海道偕行会のさらなる発展を祈ります」と北海道偕行会の活動を評価していただいた。

法人賛助会員として参加していただいたホクユーバック(株)の野田清道会長からは、「この会に初めて参加させていただきました本当にうれしく思います。自衛官、自衛隊のすばらしさを再認識しました。日本が今存在するのは、自衛官・自衛隊のおかげであることに、国民はもっと感謝しなければならぬ」との心強い挨拶があり、同氏の発声で乾杯ののち懇談に移った。

本席には陸士60期の先輩が参加される予定となっていたため、参加者一同、お話しできることを楽しみにしていたが、急遽欠席となったのは残念であった。

参加者各人の近況報告では、「努力を重ねて文学博士となることができました」、「在職間、ラグビーに精魂を傾けて大きな成果を得ることができました」、「現職時、先輩から偕行会員勧誘の檄があり、多くの方を入会に導きました」、「この冬はヨーロッパでスキーを楽しんでいます」などの発言があり、参加者から感激・感銘の言葉が上がった。

和やかな雰囲気の中に定刻を迎え、恒例の「隊歌演習」は北部方面隊歌「お拓け行く北海の…」を幕僚副長を中心にお拓け行く北海の…」を幕僚副長を中心活動に協力している映像作家・小島肇会員(陸自75)の音頭で意気軒昂に万歳三唱、来年の再会を約して大会の幕を閉じた。北海道偕行会の今年度の事業は、本大

月8日「ネストホテル札幌駅前」で開催した。前段行事の講演会には札幌・真駒内・苗穂・島松の各駐屯地から現職幹部自衛官8名、宮喜氏の同期生3名の出席を得た。各修親会長及び部隊長のご理解・ご協力の賜物である。

宮喜氏の講演は「中国の本質・軌跡と最近の政治・経済・軍事情勢」を演題に、①中国の本質・軌跡、②最近の中国情勢（政治・経済・社会）、③人民解放軍の動向・地政学、台湾危機、④最近の中国情勢と今後について1時間半にわたり、防衛駐在官及び情報本部中国分析課長としての実体験などを踏まえての熱弁を拝聴した。その一部を紹介する。

まず導入として、防衛駐在官当時、中国とロシア・北朝鮮との国境に接し、国境の重要性和国境防衛の難しさを強く認

会をもつて大きな活動を終了した。来年  
度以降も、会員相互の融和団結を図り、  
現職隊員とのつながりを広げつつ、各地  
慰霊祭で英霊に敬意を表し、講話等によ  
り安全保障関連の普及を図り、創立記念  
行事及び追悼式での現役支援に尽力する  
所存である。

懇親会参加者（既出者を除く）は、星  
野利秋（陸自59）、岡部榮（陸自62）、木  
村清順（陸自65）、相馬隆義（陸自75）、  
井上和男（同上）、鎌田順一郎（同上）、佐々  
木政弘（陸自76）、斗賀山信義（陸自86）、  
瀬田克己（陸自93）、北田勝二（陸自104）